

令和4年度学校運営連絡協議会実施報告書

1 組織

- (1) 都立府中東高等学校 学校運営連絡協議会（全日制課程）
- (2) 事務局の構成 経営企画室長1名、副校長1名 計2名
- (3) 内部委員の構成
校長、副校長、経営企画室長、教務総務主任、生活指導主任、進路指導主任、
保健主任、各学年主任 計10名
- (4) 協議委員の構成
学識経験者（大学教授、保育園長）、近隣中学校長（1名）、近隣都立学校長（1名）、
保護司1名、地域代表1名、PTA代表1名、同窓会長1名 PTAOB会会長1名
計9名

2 令和4年度学校運営連絡協議会の概要

- (1) 学校運営連絡協議会
第1回 令和4年6月16日（木） 内部委員10名 協議委員9名
協議委員委嘱、委員紹介、評価委員選出、昨年度学校経営報告と今年度学校経営計画、
各分掌・学年からの目標と現状報告、意見交換
第2回 令和4年11月10日（木） 内部委員10名 協議委員8名
授業公開、これまでの教育活動の報告、学校評価アンケートの内容検討、意見交換
第3回 令和5年2月9日（木） 内部委員10名 協議委員8名
学校の現状報告と今年度のまとめ、学校評価の報告及び学校運営に関する提言、協議
意見交換
- (2) 評価委員会
第1回 令和4年11月10日（木） 内部委員2名 協議委員1名
学校評価の基本方針確認、今年度の学校評価の観点・項目、内容の検討、実施時期の
検討、意見交換
第2回 令和5年2月9日（木） 内部委員2名 協議委員1名
アンケート集計結果の分析・考察、課題の整理、評価報告書（原案）の検討

3 学校運営連絡協議会による学校評価（学校評価報告書）

- (1) 学校評価の観点
「学校への理解」「学校の意欲」「学校の実践」の観点で実施する。
- (2) アンケート調査の実施時期・対象・回収数・規模
 - ・12月 全校生徒 対象：921人 回収：796人 回収率：86%
 - ・12月 保護者全員 対象：921人 回収：236人 回収率：26%
 - ・12月 教職員 対象：48人 回収：44人 回収率：92%
- (3) 主な評価項目
 - ・学校運営、教科指導、生活指導、進路指導、健康安全、部活動及び学校行事、
ライフ・ワーク・バランスの推進
- (4) 評価結果の概要
 - ・同じ項目では、生徒、保護者、教職員の数値を比較している。
 - ・学校満足度は、生徒、保護者共に高い値を示している。
- (5) 評価結果の分析・考察
 - ①学校生活満足度・入学満足度
 - ・本校の学校生活の充実度について、生徒、保護者、教職員ともに約9割が肯定的であり
満足度は高く、生徒は昨年度よりも肯定的な評価が約10%増加している。

- ・学校生活の将来への役立ちは、学校生活の充実度と同様に生徒、保護者、教職員ともに約9割が肯定的にとらえており、生徒は昨年度よりも肯定的な評価が約17%増加している。
- ・入学満足度は保護者が最も高く、9割を超えている。

②学習指導

- ・授業方法の工夫や改善については、生徒より教職員の方が高く評価しており、ほとんどの教職員が肯定的である。保護者は「わからない」の回答が多く、授業公開などを通じて関心を高めていく必要がある。

③生活指導

- ・学校が行っている生活指導の適切さについては、生徒はやや厳しめに評価している。
- ・時間管理については、生徒は概ね肯定的であるのに対し教職員はやや厳しく、評価に乖離が見られる。

④進路指導

- ・進路指導については、生徒の約9割前後が肯定的な評価であるが、保護者は約2割が否定的な意見である。保護者を対象とした進路行事をはじめ進路情報の提供不足も一因と思われる。教職員は昨年度よりも肯定的な評価が約10%増加している。

⑤授業の取組度

- ・生徒の授業への積極性は、全体的に肯定的な評価である。

⑥社会人教育

- ・生徒が社会人として生きていくための教育は、全体的に肯定的な評価である。

⑦特別活動・部活動

- ・学校行事の充実度は、コロナ感染症予防の影響により制限された内容となってしまったものの、生徒と保護者は昨年度よりも肯定的な評価が増加している。
- ・教職員と比較して生徒と保護者は、生徒が学校行事への積極的な参加により集団の一員としての自覚が育成されているとの肯定的な意見が高く、約9割を占める。
- ・部活動は全体的に肯定的に捉えているが、充実度に関しては保護者がやや厳しめに評価している。

⑧健康・安全

- ・セーフティ教室等を通じた健康や安全に関わる指導は、保護者の半数以上が「わからない」との回答が多いのはやむを得ないが、セーフティ教室等を実施した様子をホームページなどで公開するなど情報提供を行っていく。
- ・生徒が抱える悩みへの対応は、教職員の約9割が肯定的であるのに対し生徒・保護者は肯定的な意見がやや低く、若干の乖離がある。

⑨環境美化・整備

- ・ゴミの分別や校内美化ならびに教室などの施設等の整備については、保護者が厳しめに評価していることに加え「わからない」の回答が多く、授業公開などを通じて評価できる機会を増やす必要がある。
- ・教室などの施設等が学習や生活がしやすいように整備されていることについては、生徒、教職員ともに概ね肯定的に評価している。保護者は「わからない」の回答が多く、授業公開などを通じて関心を高めていく必要がある。

⑩情報発信

- ・ホームページにおける本校の情報発信やPRについては、全体的に肯定的に評価している。

⑪体罰・人間関係

- ・体罰防止についての積極的な取組は教職員全員が肯定的であるものの、特に生徒との乖離が見られることに課題が残る。
- ・生命の重さや人との関わりの大切さへの適切な指導について、全体的に肯定的な意見が多く占めている。

⑫教職員のライフ・ワーク・バランス（働き方改革）

- ・生徒、保護者、教職員の評価に乖離があり、特に教職員の評価は低い。

⑬地域連携

- ・府中けやきの森学園との交流活動等について、保護者は6割以上が「わからない」との回答であることから、ホームページ等を通じて積極的な情報発信が必要である。

4 学校運営連絡協議会の成果と課題

(1) 学校運営連絡協議会を実施して得られた成果

- ・学校評価アンケートや、保護者からの意見を元に、学校が抱える課題に対して意見・助言をいただき、今後の教育活動に反映させることができた。
- ・授業見学を実施し、多数の意見をいただいたことにより、教員の授業改善に向けた意識改善を図ることができた。
- ・地域から見た本校生徒の様子を聞き取り、道徳教育の改善を図ることができた。

(2) 学校運営連絡協議会を実施して明らかとなった課題

- ・学校生活や進路指導など、今後も協議会での意見を参考にしながら、学校運営の改善に努める。

5 学校運営連絡協議会及び学校評価を活用した教育活動の改善事項

(1) 学校運営

- ・教職員のライフ・ワーク・バランスを推進する。
- ・校務分掌の活性化を図り、学校全体で組織的な教育活動を一層推進する。

(2) 学習指導

- ・アクティブ・ラーニングを活用するなど、生徒に考えさせる授業を推進する。
- ・学力向上を図る授業を実践するため、教科会を充実させるとともに、教員一人一人が分かりやすい授業を実践するための指導方法を改善する。

(3) 生活指導

- ・生活指導部を中心に規範意識の醸成に努める。
- ・本校の生活指導方針を生徒や保護者に明確に示し、落ち着いた学習環境作りに取り組む。

(4) 進路指導

- ・進路指導部が中心となり、大学進学を中心に1年次から3年間を見据えた計画的な進学指導の充実を図る。特に、進路情報の確かな提供ときめの細かい進路指導を実践する。
- ・保護者向け進路ガイダンスの機会を増やし、情報発信の頻度を高める。

(5) 健康・安全

- ・生活指導部や保健部、各ホームルーム担任を中心として、校内環境整備、清掃活動の徹底、校内美化の徹底を図る。
- ・保護者からの意見が多かった昼食販売に向けて、実現に向けて計画していく。

(6) 特別活動

- ・部活動のより活動しやすい環境作りと、生徒実行委員会を中心とした行事を推進する。

6 「学校がよくなった」と考える協議委員の割合

(1) 協議委員人数 9人

(2) 学校がよくなったと答えた協議委員の人数

そう思う	多少そう思う	どちらとも言えない	あまりそう思わない	そう思わない	わからない	無回答
6	2	1	0	0	0	0

7 職員会議及び企画調整会議への協議委員の参加実績及び成果

職員会議 0回 企画調整会議 0回